

# デーヴォ ガイド



**2022.9.19-25**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

25:19 これはアブラハムの子イサクの歴史である。アブラハムはイサクを生んだ。

25:20 イサクが、パダン・アラムのアラム人ベトエルの娘で、アラム人ラバンの妹であるリベカを妻に迎えたときは、四十歳であった。

25:21 イサクは、自分の妻のために【主】に祈った。彼女が不妊の女だったからである。【主】は彼の祈りを聞き入れ、妻リベカは身ごもった。

25:22 子どもたちが彼女の腹の中でぶつかり合うようになったので、彼女は「こんなことでは、いったいどうなるのでしょうか、私は」と言った。そして、【主】のみこころを求めに出て行った。

25:23 すると【主】は彼女に言われた。「二つの国があなたの胎内にあり、二つの国民があなたから分かれ出る。一つの国民は、もう一つの国民より強く、兄が弟に仕える。」

25:24 月日が満ちて出産の時になった。すると見よ、双子が胎内にいた。

25:25 最初に出て来た子は、赤くて、全身毛衣のようであった。それで、彼らはその子をエサウと名づけた。

25:26 その後で弟が出て来たが、その手はエサウのかかとをつかんでいた。それで、その子はヤコブと名づけられた。イサクは、彼らを生んだとき、六十歳であった。

25:27 この子どもたちは成長した。エサウは巧みな狩人、野の人であったが、ヤコブは穏やかな人で、天幕に住んでいた。

25:28 イサクはエサウを愛していた。獵の獲物を好んでいたからである。しかし、リベカはヤコブを愛していた。

25:29 さて、ヤコブが煮物を煮ていると、エサウが野から帰って来た。彼は疲れきっていた。

25:30 エサウはヤコブに言った。「どうか、その赤いのを、そこの赤い物を食べさせてくれ。疲れきっているのだ。」それで、彼の名はエドムと呼ばれた。

25:31 するとヤコブは、「今すぐ私に、あなたの長子の権利を売ってください」と言った。

25:32 エサウは、「見てくれ。私は死にそうだ。長子の権利など、私にとって何になるう」と言った。

25:33 ヤコブが「今すぐ、私に誓ってください」と言ったので、エサウはヤコブに誓った。こうして彼は、自分の長子の権利をヤコブに売った。

25:34 ヤコブがエサウにパンとレンズ豆の煮物を与えたので、エサウは食べたり飲んだりして、立ち去った。こうしてエサウは長子の権利を侮った。

神様は御心のままにご介入なさってご計画を進める方ですが、ときには人の心のあるがままに任せて、その心の内を明らかにされます。つまり聖なる予定の通りに進めることもあれば、あるがままに任せて将来を予知なさることもあるのです。予定か予知か…それは神様が権威を持ってお決めになることです。

エサウとヤコブの関係は神様が予知なやり、その将来をリベカに告げたとと言えるでしょう。主はエサウが神の祝福や権威、そこから来る長子の権を軽んじるような信仰となることを予知しておられたと思われます。

ただし、この神の御心に関して、この家族が正しく行動意できたわけではありません。ヤコブはその権利をだまし取る方へ動き、リベカは偏愛す

るヤコブをそそのかし、イサクはエサウを愛するあまり信仰教育で失敗していたのです。これらことから少なくとも3つの面で教えられます。第一に個人的な教訓です。イサクの信仰教育と、リベカの偏愛、エサウの肉体的信仰、ヤコブの狡猾さなどの教訓。またイサクの妻想いの面やリベカの祈りなど模範もあります。

第二に神に求める信仰の大切さです。彼らはみな欠点のある人間で、誰がより正しいという比較はできません。しかしその中で、神様は確実にヤコブを愛し彼に祝福を与えたのです。このように主を頼り求めることは、不完全な人間にとっての祝福の道なのです。

第三には信仰による跡継ぎということですが。血統の流れから言えば、当然エサウに行くべき子孫の祝福が、信仰的な理由からヤコブに行ったということは、子孫とは信仰によるものであるということを示しています。

信仰によってアブラハムの子孫である私たちは、ますますその確信を強めまた感謝し、信仰をもって神様に求めましょう。また神の権威の前にその御心を行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





26:1 さて、アブラハムの時代にあった先の飢饉とは別に、この国にまた飢饉が起こった。それでイサクは、ゲラルのペリシテ人の王アビメレクのもとへ行った。

26:2 【主】はイサクに現れて言われた。「エジプトへは下ってはならない。わたしがあなたに告げる地に住みなさい。

26:3 あなたはこの地に寄留しなさい。わたしはあなたとともにいて、あなたを祝福する。あなたとあなたの子孫に、わたしがこれらの国々をすべて与える。こうしてわたしは、あなたの父アブラハムに誓った誓いを果たす。

26:4 さしてわたしは、あなたの子孫を空の星のように増し加え、あなたの子孫に、これらの国々をみな与える。あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。

26:5 これは、アブラハムがわたしの声に聞き従い、わたしの命令と掟とおしえを守って、わたしへの務めを果たしたからである。」

26:6 こうしてイサクはゲラルに住んでいたが、  
26:7 その土地の人々が彼の妻のことを尋ねた。すると彼は「あれは私の妹です」と答えた。この土地の人々がリベカのこと自分を殺しはしないかと思って、「私の妻です」と言うのを恐れたのであった。彼女が美しかったからである。

26:8 イサクは長くそこに滞在していた。ある日のこと、ペリシテ人の王アビメレクが窓から見下ろしていると、なんと、イサクがその妻リベカを愛撫しているのが見えた。

26:9 アビメレクは、イサクを呼び寄せて言った。「本当のところ、あの女はあなたの妻ではないか。なぜ、あなたは『あれは私の妹で

す』と言ったのか。」イサクは「彼女のことで殺されはしないかと思ったからです」と答えた。

26:10 アビメレクは言った。「何ということをしてくれたのか。もう少しで、民の一人があなたの妻と寝て、あなたはわれわれに罪責をもたらすところだった。」

26:11 そこでアビメレクは、すべての民に命じて言った。「この人と、この人の妻に触れる者は、必ず殺される。」

ゲラルは約束の地カナン南部です。ききんがあっても、イサクは神様の約束と命令に従って、カナンの地に留まったのです。彼は父アブラハムからその信仰の遺産とも言うべき、信徒の資質を受け継いだと言えるでしょう。親の信仰の生き方は子どもに深く影響するものです。神様を愛して恐れる両親からはそのような子どもが育ち、神様を二の次にする両親からは同じような子どもが育つのです。（もちろん他のクリスチャンの影響によって育つ場合もあります）

また神様はアブラハムの信仰によってその子孫を祝福すると約束されましたが、それもそのまま子であるイサクに有効でした。恵の大きさが思われず。

しかし、親の信仰や資質が悪い面で子どもに影響する例もここにあります。イサクが父と同じように、王を恐れるあまり嘘を言い、危険から逃れようとしたのです。それはリベカに危険を与えかねないものでした。しかし神様は王にイサクとリベカの様子を見せました。またかつてアブラハムのときにも同じことがあって、王が神様から警告を与えられたことを思い起こさせ、そして難を逃れるようにしてくださったのです。

誰でも大切なものを守るために、苦渋の選択をしなければいけないときがあります。その弱さの中で、最終的に守ってくださるのは神様です。も

しもイサクが神様の命令やご計画を無視して、勝手に歩んでいたなら、神様の守りは保証されなかったでしょう。主に従った結果の危機であったので、主が守ってくださるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 21日 水曜

### 創世記

26:12 イサクはその地に種を蒔き、その年に百倍の収穫を見た。【主】は彼を祝福された。

26:13 こうして、この人は富み、ますます栄えて、非常に裕福になった。

26:14 彼が羊の群れや牛の群れ、それに多くのしもべを持つようになったので、ペリシテ人は彼をねたんだ。

26:15 それでペリシテ人は、イサクの父アブラハムの時代に父のしもべたちが掘った井戸を、すべてふさいで土で満たした。

26:16 アビメレクはイサクに言った。「さあ、われわれのところから出て行ってほしい。われわれより、はるかに強くなったから。」

26:17 イサクはそこを去り、ゲラルの谷間に天幕を張って、そこに住んだ。

26:18 イサクは、彼の父アブラハムの時代に掘られて、アブラハムの死後にペリシテ人がふさいだ井戸を掘り返した。イサクは、それらに父がつけていた名と同じ名をつけた。

26:19 イサクのしもべたちがその谷間を掘っているとき、そこに湧き水の井戸を見つけた。

26:20 ゲラルの羊飼いたちは「この水はわれわれのものだ」と言って、イサクの羊飼いたちと争った。それで、イサクはその井戸の名をエセクと呼んだ。彼らがイサクと争ったからである。

26:21 しもべたちは、もう一つの井戸を掘った。それについても彼らが争ったので、その名をシテナと呼んだ。

26:22 イサクはそこから移って、もう一つの井戸を掘った。その井戸については争いがなかったため、その名をレホボテと呼んだ。そ



して彼は言った。「今や、【主】は私たちに広い所を与えて、この地で私たちが増えるようにしてくださった。」

主に従う者は祝福されますが、それが非難の標的になることもあります。神を信じない人々は、クリスチャンが苦難のときは「信じているのに意味がない」と言ったり、また祝福されると「いい気になって」などと言ったりするものです。イサクもそのような扱いを受け、実際に大損害を被りました。生きるのに必要な水を奪われたのです。

しかし彼はあくまでも争わず新しい井戸を発見し、それもまた再三奪われてもまた発見し、最後にはそれゆえに彼の地境が広がるようになりました。ゲラルもシテナも「争い」という意味ですが、レホボテとは「広い地」と言う意味で、今もその地にはいくつもの井戸が存在しています。彼が最終的には大きな恵にあずかったことがわかります。

なぜイサクはそこまで温厚・謙遜でいられたのでしょうか。それは第一に、主の祝福を信じ続けていたからです。「主に愛されている」という自己像を持つ人は、人と争い勝つ必要を感じないものなのです。みな愛されているのですから、そのような人間関係を身に付けましょう。

第二に父アブラハムの信仰です。アブラハムの時代の井戸は、アビメレクとの約束でアブラハムのもとなり、それゆえにアブラハムは多くの贈り物さえしたのです。それを今回奪われたのですが、実はアブラハムはそこに柳の木を植えて礼拝の場所としたのです。彼にとって重要なのは井戸よりも、神の存在と守りだったということです。その信仰が子のイサクにも継承されていたのです。柳の木がイサクへの証でした。主の導きとそれを信じた先人（親や先駆者、またはリーダーなど）の証しは非常に重要です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





26:23 彼はそこからベエル・シェバに上った。

26:24 【主】はその夜、彼に現れて言われた。「わたしは、あなたの父アブラハムの神である。恐れてはならない。わたしがあなたとともにいるからだ。わたしはあなたを祝福し、あなたの子孫を増し加える。わたしのしもべアブラハムのゆえに。」

26:25 イサクはそこに祭壇を築き、【主】の御名を呼び求めた。彼はそこに天幕を張り、イサクのしもべたちは、そこに井戸を掘った。

26:26 さて、アビメレクがゲラルからイサクのところに来て来た。友人のアフザテと、その軍の長ピコルも一緒であった。

26:27 イサクは彼らに言った。「なぜ、あなたがたは私のところに来たのですか。私を憎んで、自分たちのところから私を追い出したのに。」

26:28 彼らは言った。「私たちは、【主】があなたとともにおられることを確かに見ました。ですから、こう言います。どうか私たちの間で、私たちとあなたとの間で、誓いを立ててください。あなたと盟約を結びたいのです。」

26:29 私たちがあなたに手出しをせず、ただ良いことだけをして、平和のうちにあなたを送り出したように、あなたも私たちに害を加えないという盟約です。あなたは今、【主】に祝福されています。」

26:30 そこでイサクは彼らのために宴会を催し、食べたり飲んだりした。

26:31 翌朝早く、両者は互いに誓いを交わした。イサクは彼らを送り出し、彼らは平和の

うちに彼のところから去って行った。

26:32 ちょうどその日、イサクのしもべたちが帰って来て、自分たちが掘り当てた井戸のことについて告げた。「私どもは水を見つけました。」

26:33 そこでイサクは、その井戸をシブアと呼んだ。それゆえ、その町の名は、今日に至るまで、ベエル・シェバという。

26:34 エサウは四十歳になって、ヒッタイト人ベエリの娘ユディトと、ヒッタイト人エロンの娘バセマテを妻に迎えた。

26:35 彼女たちは、イサクとリベカにとって悩みの種となった。

イサクの原点は神様による祝福の約束です。それゆえききんにも耐え、争いにも信仰で乗り越え、結果的に豊かにされたのです。私たちも神様からの約束をいただき、常にそれを心に留めたいものです。神様はご自身を愛する者には「全てのことが合い働いて益となる」と約束しておられます。

そしてイサクの行動の原点は祭壇による「礼拝」と、天幕で生活する「仕事と家族」です。これらを神様の喜ばれるように行っていきましょう。

これまでアビメレク王という有力者に好きなように翻弄されてきたイサクでしたが、驚くようなことが起こりました。彼らがイサクの力を認めて、友好を求めて来たのです。それはイサクが争って勝ったからではなく、むしろ争わずとも結果的に祝福されたという、神の力の証しがあったからです。

クリスチャンにも敵対者はいるでしょう。その場合、主イエスの十字架によって赦し、主の守りのゆえに御手に委ね、主のみわざを待つようにしてみましょう。主は生きておられるので必ず働いてくださるはずですが、またはそれまでの苦しみを益としてくださるはずですが、まずは主に、どうすべきか聞きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





27:1 イサクが年をとり、目がかすんでよく見えなくなったときのことである。彼は上の息子エサウを呼び寄せて、「わが子よ」と言った。すると彼は「はい、ここにおります」と答えた。

27:2 イサクは言った。「見なさい。私は年老いて、いつ死ぬか分からない。

27:3 さあ今、おまえの道具の矢筒と弓を取って野に出て行き、私のために獲物をしとめて来てくれないか。

27:4 そして私のために私の好きなおいしい料理を作り、ここに持って来て、私に食べさせてくれ。私が死ぬ前に、私自ら、おまえを祝福できるように。」

27:5 リベカは、イサクがその子エサウに話しているのを聞いていた。それで、エサウが獲物をしとめて父のところに持って来ようと野に出かけたとき、

27:6 リベカは息子のヤコブに言った。「今私は、父上があなたの兄エサウにこう言っておられるのを聞きました。

27:7 『獲物を捕って来て、私においしい料理を作ってくれ。食べて、死ぬ前に、【主】の前でおまえを祝福しよう。』

27:8 さあ今、子よ、私があなたに命じることを、よく聞きなさい。

27:9 さあ、群れのところに行って、そこから最上の子やぎを二匹取って私のところに来なさい。私はそれで、あなたの父上の好きな、おいしい料理を作りましょう。

27:10 あなたが父上のところに持って行けば、食べて、死ぬ前にあなたを祝福してくださるでしょう。」

27:11 ヤコブは母リベカに言った。「でも、兄さんのエサウは毛深い人なのに、私の肌は滑らかです。

27:12 もしかすると父上は私にさわって、私にからかわれたと思うでしょう。私は祝福どころか、のろいをこの身に招くことになります。」

27:13 母は彼に言った。「子よ、あなたへののろいは私の身にあるように。ただ私の言うことをよく聞いて、行って子やぎを取って来なさい。」

27:14 それでヤコブは行って、取って母のところに持って来た。母は、父の好む、おいしい料理を作った。

どんなに信仰の人でも、高齢になれば洞察力や判断力が鈍ります。それは罪深い人格になったのではなく、衰えの問題で誰でも通る道なのです。イサクもそれを自覚していた部分と自覚しきれなかった部分があったことでしょう。彼は体の衰えゆえに、自分によくしてくれるエサウを愛しました。

それでも彼は祝福が神ご自身から来ることについては、固い信仰を持っていました。神をあがめていたのです。衰えても最後に残るのは神への信頼です。

一方リベカはヤコブを愛しました。エサウが野生的な人であったのに対し、ヤコブは優しい雰囲気があったのでしょうか。このように愛（両親に限らず、他の人間関係でも）が偏るときには、もしかしたら自分中心的な動機が入り込んでいるかもしれません。または視野が狭くなっているかもしれません。気をつけたいものです。

かつてエサウは弟やヤコブに長子の権利を譲りました。もしも誠実な人であったら、約束を守りヤコブに与えたことでしょうか、そうならずにリベカはだまし取ることを計画しました。実に不誠

実なやり方です。結局それは後に大きな争いと別離をもたらすことになります。

その主張が正しければ何をしても良いということはありません。主の喜ばれる方法が必要です。愛と誠実、そして互いを思いやる道を考える必要があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 24日 土曜

### 創世記

27:15 それからリベカは、家の中で自分の手もとにあった、上の息子エサウの衣を取って来て、それを下の息子ヤコブに着せ、

27:16 また、子やぎの毛皮を、彼の両腕と、首の滑らかなところに巻き付けた。

27:17 そうして、自分が作ったおいしい料理とパンを、息子ヤコブの手に渡した。

27:18 ヤコブは父のところに行き、「お父さん」と言った。イサクは「おお。おまえはどれかね、わが子よ」と尋ねた。

27:19 ヤコブは父に、「長男のエサウです。私はお父さんが言われたとおりにしました。どうぞ、起きて座り、私の獲物を召し上がってください。そうして、自ら私を祝福してください」と答えた。

27:20 イサクは、その子に言った。「どうして、こんなに早く見つけることができたのかね、わが子よ。」彼は答えた。「あなたの神、【主】が私のために、そうしてくださったのです。」

27:21 そこでイサクはヤコブに言った。「近くに寄ってくれ。わが子よ。おまえが本当にわが子エサウなのかどうか、私はおまえにさわってみたい。」

27:22 ヤコブが父イサクに近寄ると、イサクは彼にさわり、そして言った。「声はヤコブの声だが、手はエサウの手だ。」

27:23 ヤコブの手が、兄エサウの手のように毛深かったので、イサクには見分けがつかなかった。それでイサクは彼を祝福しようとして、

27:24 「本当におまえは、わが子エサウだね」と言った。するとヤコブは答えた。「そ

うです。」

27:25 そこでイサクは言った。「私のところに持って来なさい。わが子の獲物を食べたい。そうして私自ら、おまえを祝福しよう。」そこでヤコブが持って来ると、イサクはそれを食べた。またぶどう酒を持って来ると、それも飲んだ。

27:26 父イサクはヤコブに、「近寄って私に口づけしてくれ、わが子よ」と言ったので、

27:27 ヤコブは近づいて、彼に口づけした。イサクはヤコブの衣の香りを嗅ぎ、彼を祝福して言った。「ああ、わが子の香り。

【主】が祝福された野の香りのようだ。

27:28 神がおまえに天の露と地の肥沃、豊かな穀物と新しいぶどう酒を与えてくださるようになる。

27:29 諸国の民がおまえに仕え、もろもろの国民がおまえを伏し拝むように。おまえは兄弟たちの主となり、おまえの母の子がおまえを伏し拝むように。おまえを呪う者がのろわれ、おまえを祝福する者が祝福されるように。」

ヤコブは父をだましました。しかし、かつてはエサウから長子の権利を譲ると言われたのですから、全面的に間違っているわけでもないでしょう。父と兄に自分の正当性を訴えることもできたでしょう。しかし父は自己のために兄エサウを愛し、兄エサウはかつての約束に対して誠実ではなかったのです。

ヤコブには兄エサウとの約束に沿って、調子の権利を手に入れたのですが、その方法が間違っていました。後にエサウの恨みをかい実家にいらなくなるのです。そんなヤコブを通してわかることは、神に期待することの大切さです。エサウは神からの祝福（長子の権利）など軽んじていまし



たが、ヤコブはこれを重要なものとしたのです。この点だけはヤコブに信仰があったと言えます。

誰にでも欠点があり、性格み多少の問題があるでしょう。しかし神様に期待し、信頼することにおいては、熱心でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





27:30 イサクがヤコブを祝福し終わり、ヤコブが父イサクの前から出て行くとともに、兄のエサウが獵から戻って来た。

27:31 彼もまた、おいしい料理を作って、父のところを持って来た。そして父に言った。「お父さん。起きて、息子の獲物を召し上がってください。あなた自ら、私を祝福してください。」

27:32 父イサクは彼に言った。「だれだね、おまえは。」彼は言った。「私はあなたの子、長男のエサウです。」

27:33 イサクは激しく身震いして言った。「では、いったい、あれはだれだったのか。獲物をしとめて、私のところに持って来たのは。おまえが来る前に、私はみな食べてしまい、彼を祝福してしまった。彼は必ず祝福されるだろう。」

27:34 エサウは父のことばを聞くと、声の限りに激しく泣き叫び、父に言った。「お父さん、私を祝福してください。私も。」

27:35 父は言った。「おまえの弟が来て、だましたのだ。そしておまえへの祝福を奪い取ってしまった。」

27:36 エサウは言った。「あいつの名がヤコブというのも、このためか。二度までも私を押しつけて。私の長子の権利を奪い取り、今また、私への祝福を奪い取った。」また言った。「私のためには、祝福を取っておかれなかったのですか。」

27:37 イサクは答えてエサウに言った。「ああ、私は彼をおまえの主とし、すべての兄弟を彼にしもべとして与えた。また穀物と新しいぶどう酒で彼を養うようにした。わが子よ、

おまえのためには、いったい何ができるだろうか。」

27:38 エサウは父に言った。「お父さん、祝福は一つしかないのですか。お父さん、私を祝福してください。私も。」エサウは声をあげて泣いた。

27:39 父イサクは彼に答えた。「見よ。おまえの住む所には地の肥沃がなく、上から天の露もない。」

27:40 おまえは自分の剣によって生き、自分の弟に仕えることになる。しかし、おまえが奮い立つなら、おまえは自分の首から彼のくびきを解き捨てるだろう。」

27:41 エサウは、父がヤコブを祝福した祝福のことで、ヤコブを恨んだ。それでエサウは心の中で言った。「父の喪の日も近づいている。そのとき、弟ヤコブを殺してやろう。」

27:42 上の息子エサウの言ったことがリベカに伝えられると、彼女は人を送り、下の息子ヤコブを呼び寄せて言った。「兄さんのエサウが、あなたを殺して鬱憤を晴らそうとしています。」

27:43 さあ今、子よ、私の言うことをよく聞きなさい。すぐに立って、ハランへ、私の兄ラバンのところへ逃げなさい。

27:44 兄さんの憤りが収まるまで、おじラバンのところにしばらくとどまっていなさい。

27:45 兄さんの怒りが収まって、あなたが兄さんにしたことを兄さんが忘れたとき、私は人を送って、あなたをそこらへ呼び戻しましょう。あなたたち二人を一日のうちに失うことなど、どうして私にできるでしょう。」

27:46 リベカはイサクに言った。「私はヒッ

タイト人の娘たちのことで、生きているのがいやになりました。もしヤコブが、この地の娘たちのうちで、このようなヒツタイト人の娘たちのうちから妻を迎えたとしたら、私は何のために生きることになるのでしょうか。」

イサクはだまされ間違っただけでヤコブを祝福してしまいました。頼りない族長であり、またリーダーです。その中でもイサクから学ぶことはあります。それは神への誠実です。1度自分が祝福して願ったことは、安易に変更したりできないという、真剣さが彼にはあります。それに対してエサウは自分が神の祝福を放棄しましたが、それを後で求めていることからすれば、初めからいい加減な気持ちで放棄すると言ったのでしょう。

誰でも発言や責任をあいまいにしたいときもあります。しかし神様に祈るとき、また決断するとき、約束するとき、意思を表明するとき、私たちは常に神の前であることを忘れずに真剣・誠実でありたいと思います。

エサウは自分の浅はかさから出たことでもあるのに全てをヤコブのせいにして恨みました。人は希望に反する方向にことが進むと、自分を被害者のように思い、加害者である周囲が悪いと考える傾向があります。しかし神様の目で見ることのできるクリスチャンは、希望を持ちつつ冷静に、自分の非を教えてもらうことができるのです。

- ①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）
- ②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）
- ③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）
- ④この世にあって何を実践しますか？